

宮城県商工区地 中小企業景況調査報告書

2022年4月～6月期

目 次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

2022年8月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

2022年4月～6月

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内10商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市商工会、大河原町商工会、みやぎ仙台商工会、利府松島商工会、くろかわ商工会、加美商工会、遠田商工会、若柳金成商工会、みやぎ北上商工会、石巻かほく商工会
- (2) 対象企業数 150企業
- (3) 回答企業数 150企業

2. 調査対象期間

2022年4月～6月期を対象として、調査時点は2022年6月1日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	33
建 設 業	25
小 売 業	43
サービス業	49
合 計	150

5. そ の 他

本報告書中のD Iとは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

(1) 主要景況項目のあらまし

① 業況D Iの状況と来期見通し

県下商工会地区における今期(2022年4月～6月期)の調査において、産業全体(全産業)の業況D I(前年同期との比較D I、以下同じ)は、前期より2.5ポイントの改善で△31.5(前期△34.0)となった。産業別では、製造業が△21.2(前期△36.4)と改善幅が15.2ポイントと大きく上昇、一方、建設業は△36.0(前期△20.0)で△16.0ポイントと大幅悪化、小売業は△45.3(前期△45.2)でほぼ横ばい、サービス業では△24.5(前期△29.8)と5.3ポイントの改善となった。

来期見通しでは、産業全体(全産業)として改善の見通しである。産業別では、製造業、建設業で改善、小売業、サービス業では悪化の見通しである。

表一 業況D Iの状況と来期見通し (前年同期比・D I)

業種	前期	今期	来期見通し
全産業	△ 34.0	△ 31.5	△ 30.9
製造業	△ 36.4	△ 21.2	△ 15.2
建設業	△ 20.0	△ 36.0	△ 28.0
小売業	△ 45.2	△ 45.3	△ 47.6
サービス業	△ 29.8	△ 24.5	△ 28.5

② 設備投資の状況と来期計画

新規投資の実施比率は、製造業が12.1%で前期比3.0ポイント増加、建設業は12.0%と前期比3.7ポイント増加、一方、小売業では9.3%で前期比5.0ポイントの減少、サービス業は8.2%と前期比2.4ポイントの減少であった。

来期に設備投資を計画している企業は、今期に比べ製造業で減少、建設業、小売業、サービス業では増加となっている。

表二 設備投資の状況と来期計画 (企業割合・%)

業種	前期	今期	来期計画
製造業	9.1	12.1	9.1
建設業	8.3	12.0	16.0
小売業	14.3	9.3	16.3
サービス業	10.6	8.2	18.4

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

2022年6月調査の日銀短観で、「中小企業の業況判断指数（D I）は前期(2022年3月調査)と比較し、「製造業が横ばいのマイナス4、非製造業はマイナス1で前期から5ポイント上昇。経済全体の景況感は、まん延防止等重点措置が解除され経済活動の正常化が進むなか、人出の回復に伴い非製造業を中心に改善する見込み」と発表された。

宮城の今期売上額（完成工事額）D Iは、前期との比較では製造業、小売業で改善、サービス業では改善幅が2桁ポイント上昇しプラスに回復、一方、建設業では悪化となった。

今期の宮城の全国・東北との売上額D I比較では、製造業・建設業で全国・東北以下、小売業では全国以下・東北以上、サービス業では全国・東北以上であった。

表－3 売上額（完成工事額）の状況 (前年同期比・D I)

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 15.5	△ 3.2	△ 18.2	△ 3.0	△ 30.3	△ 12.1
建 設 業	△ 22.6	△ 19.0	△ 23.9	△ 22.3	△ 24.0	△ 32.0
小 売 業	△ 38.8	△ 20.2	△ 47.0	△ 31.9	△ 37.2	△ 30.3
サービス業	△ 46.0	△ 6.0	△ 48.9	△ 14.2	△ 27.1	6.2

② 採 算

宮城の今期の採算D Iは、全業種でマイナス値であった。前期との比較では、製造業・サービス業で改善、建設業・小売業で悪化となった。

今期の宮城の全国・東北との採算D I比較では、建設業で全国・東北以下、製造業・小売業で全国以下・東北以上、サービス業では全国・東北以上であった。

表－4 採算の状況 (前年同期比・D I)

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 30.5	△ 25.6	△ 31.4	△ 32.4	△ 39.4	△ 30.3
建 設 業	△ 33.5	△ 35.9	△ 35.1	△ 39.2	△ 40.0	△ 48.0
小 売 業	△ 49.0	△ 40.0	△ 57.2	△ 53.9	△ 51.2	△ 53.4
サービス業	△ 49.8	△ 32.2	△ 53.1	△ 38.1	△ 35.5	△ 22.5

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

宮城の売上額（完成工事額）来期見通しD I（2022年7月～9月期）では、今期状況D Iとの比較で、製造業で△15.2ポイント悪化、建設業で横ばい、小売業で4.7ポイント改善、サービス業では△20.5ポイント悪化の見通しとなった。

採算来期見通しD Iでは、今期状況D Iとの比較で、製造業で6.1ポイント改善、建設業で横ばい、小売業で16.2ポイント改善、サービス業で△2.0ポイント悪化の見通しとなった。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

今期と来期見通しとの比較において、製造業では売上は全国で改善、宮城で悪化、採算では全国・宮城で共に改善の見通しとなった。建設業では売上は全国で悪化、宮城で横ばい、採算では全国で改善、宮城で横ばいの見通しとなった。小売業では売上が全国・宮城で共に改善、採算でも全国・宮城で共に改善の見通しとなった。サービス業では売上が全国で改善、宮城で悪化、採算でも全国で改善、宮城で悪化の見通しとなった。

表－5 売上額（完成工事額）の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製造業	△ 3.2	△ 0.8	△ 12.1	△ 27.3
建設業	△ 19.0	△ 21.4	△ 32.0	△ 32.0
小売業	△ 20.2	△ 17.7	△ 30.3	△ 25.6
サービス業	△ 6.0	△ 0.4	6.2	△ 14.3

表－6 採算の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製造業	△ 25.6	△ 21.4	△ 30.3	△ 24.2
建設業	△ 35.9	△ 32.4	△ 48.0	△ 48.0
小売業	△ 40.0	△ 34.5	△ 53.4	△ 37.2
サービス業	△ 32.2	△ 26.2	△ 22.5	△ 24.5

2. 県下産業別の景況

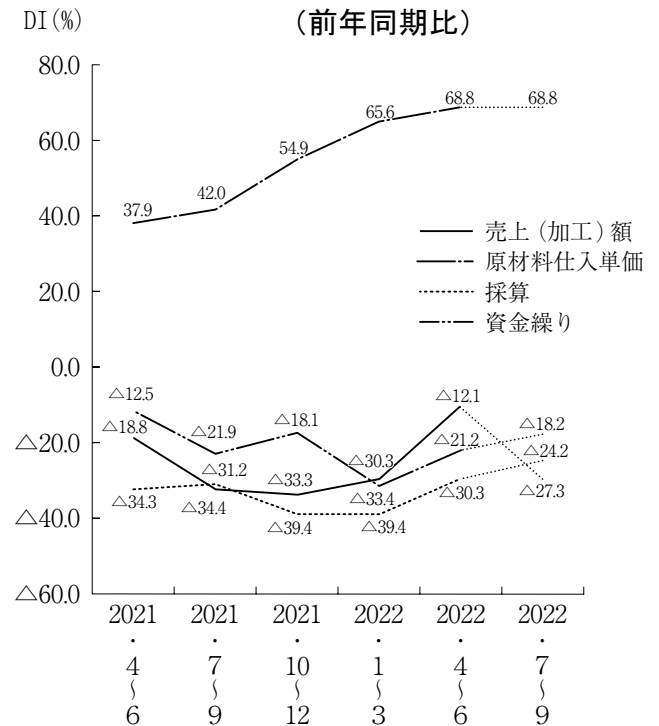
(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、売上（加工）額D Iが今期△12.1（前期△30.3）となり前期比18.2ポイント改善、採算D Iでは今期△30.3（前期△39.4）で同9.1ポイント改善、資金繰りD Iでは今期△21.2（前期△33.4）で同12.2ポイントの改善となった。

原材料仕入単価は今期68.8（前期65.6）と3.2ポイント上昇した。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



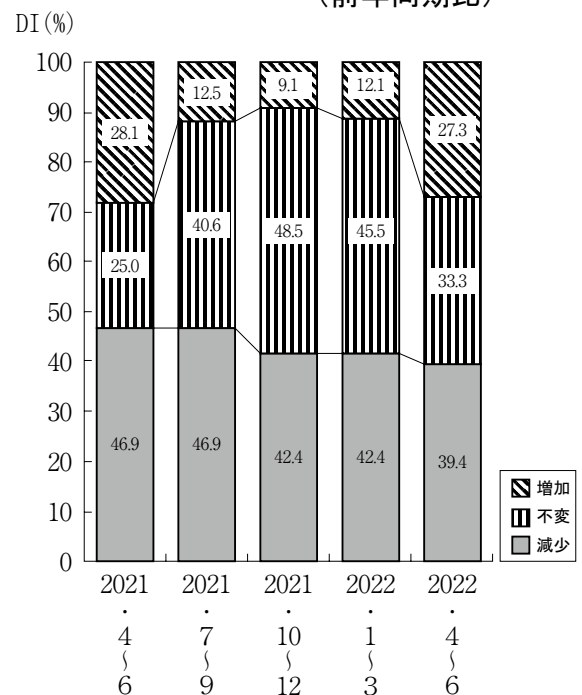
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(加工)額

「増加」と回答した企業は、全体の27.3%（前期12.1%）と15.2ポイント増加、「減少」と回答した企業は39.4%（前期42.4%）と3.0ポイント減少した。

その結果、売上（加工）額D Iは△12.1（前期△30.3）となり前期比18.2ポイントと大きく改善した。

図1-2 売上（加工）額の状況
(前年同期比)

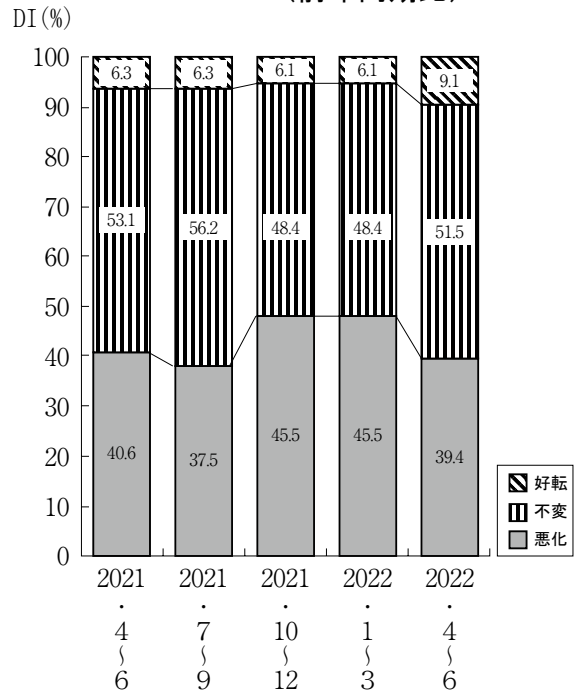


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 9.1% (前期 6.1%) で 3.0 ポイント増加、「悪化」と回答した企業は 39.4% (前期 45.5%) で 6.1 ポイント減少。

その結果、採算DIは△30.3 (前期△39.4) で 9.1 ポイントの改善となった。

図 1-3 採算の状況
(前年同期比)



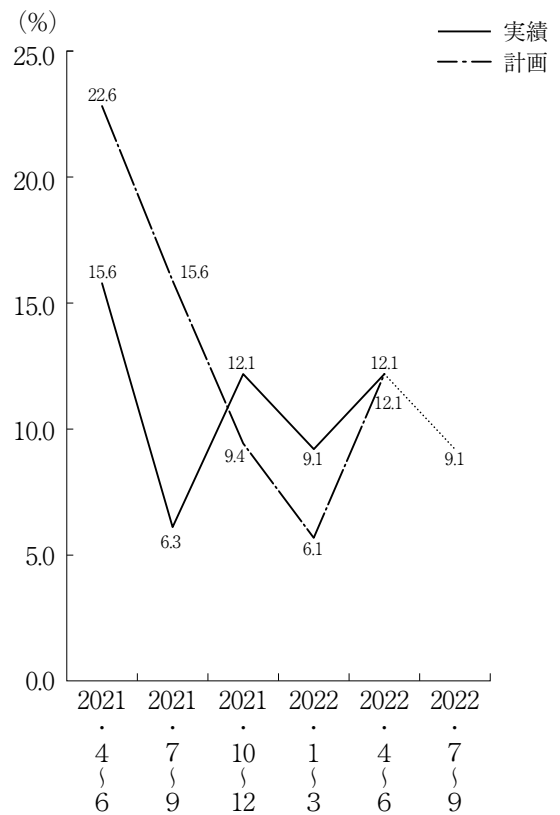
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施(実績)企業割合は全体の 12.1% (前期 9.1%) で、前期と比べ 3.0 ポイント増加した。

その設備内容は、生産設備、工場建物であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の 9.1%で、その設備内容は、生産設備、OA機器となっている。

図 1-4 設備投資の状況

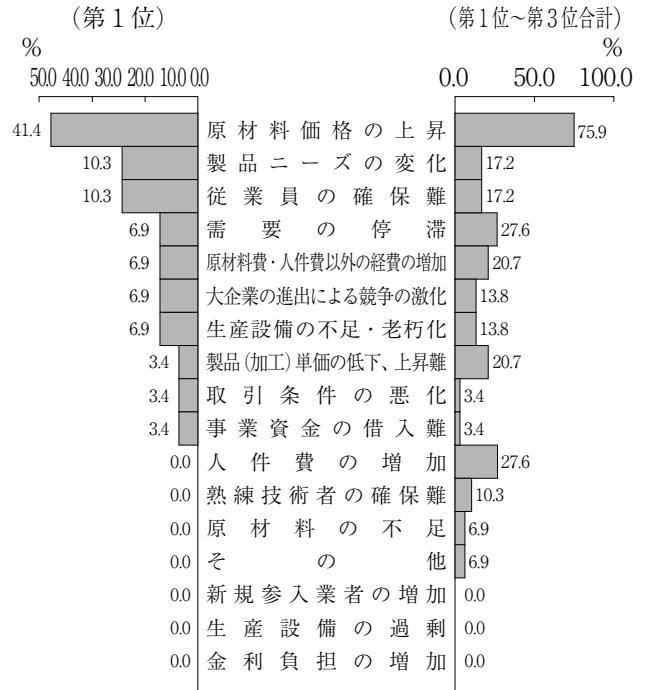


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「原材料価格の上昇」で41.4%、次いで「製品ニーズの変化」と「従業員の確保難」が同率10.3%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では「原材料価格の上昇」が75.9%(複数回答合計、以下同じ)で最上位、次いで「需要の停滞」と「人件費の増加」が同率27.6%となり、「原材料・人件費以外の経費の増加」と「製品(加工)単価の低下、上昇難」が同率20.7%で続いた。

図1-5 経営上の問題点



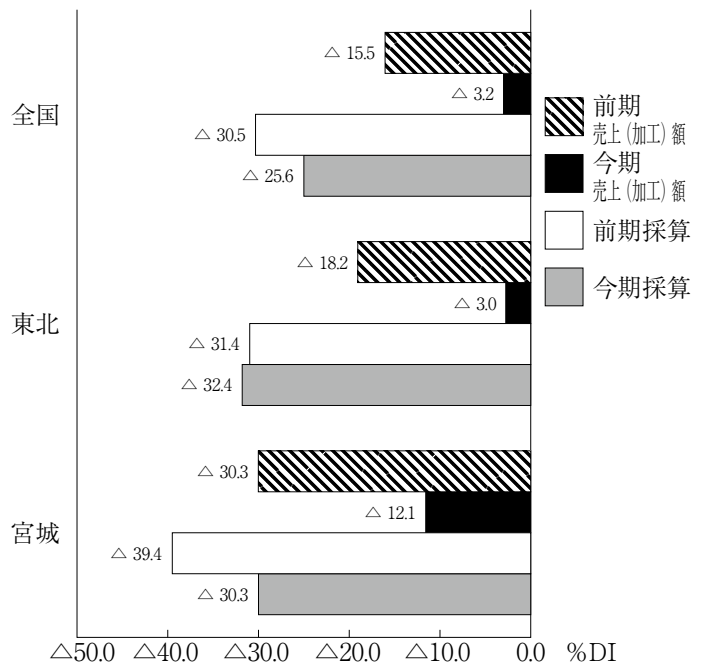
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期の比較では売上(加工)額DIでは全国、東北、宮城で改善した。

採算DIの比較では、全国、宮城で改善、東北で悪化となった。

本県回答事業者からは「コロナ収束に伴い少しずつ売上が改善傾向」(飲食料品製造)とする一方で、「コロナ禍等による原材料・エネルギーの高騰」(建具)や、「大手企業の部品調達の滞りによる生産停滞、材料費の価格上昇」(金属加工)、「資金繰りの確保と生産性を上げることが必要」(食品加工)などのコメントがあった。

図1-6 全国東北宮城売上(加工)額・採算比較(前年同期比)

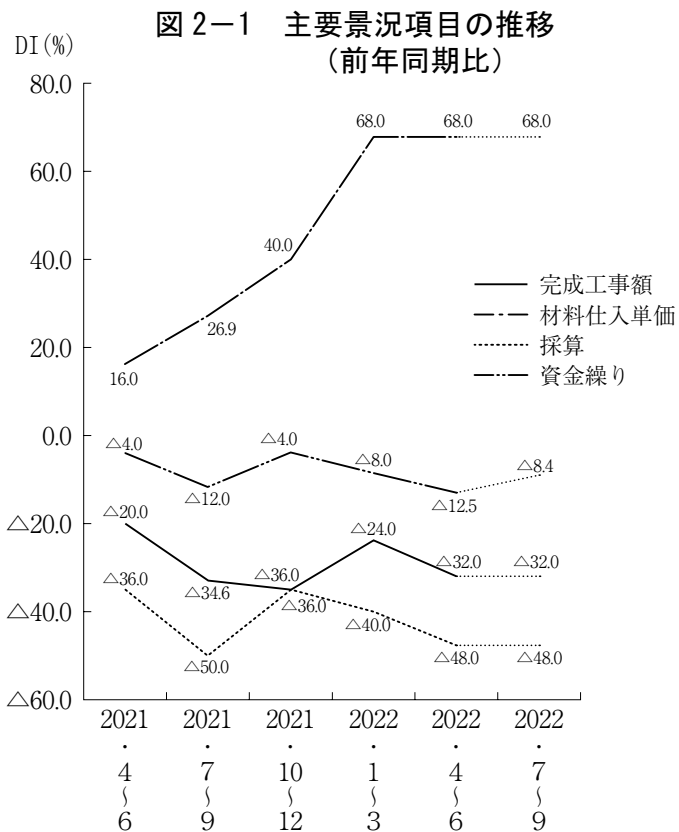


(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額D Iは今期△32.0（前期△24.0）と△8.0ポイント悪化、採算D Iでは今期△48.0（前期△40.0）で△8.0ポイント悪化、資金繰りD Iでも今期△12.5（前期△8.0）と△4.5ポイント悪化した。

材料仕入単価D Iは今期 68.0（前期 68.0）と横ばいとなった。

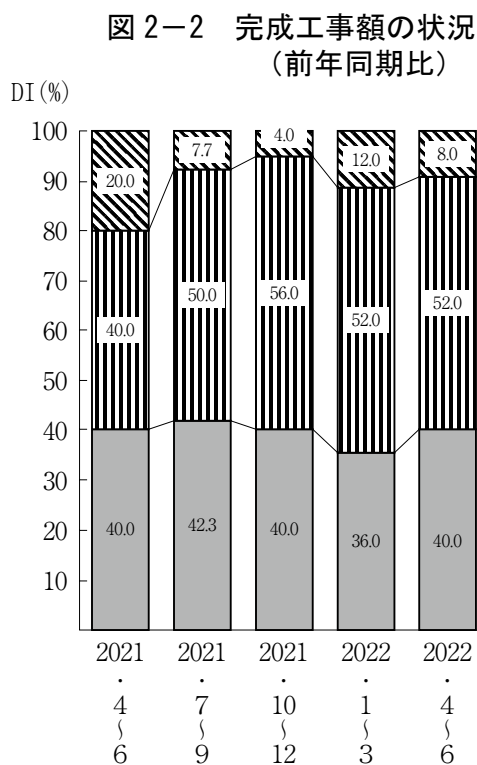


② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事（請負工事）額

「増加」と回答した企業は全体の 8.0%（前期 12.0%）で△4.0ポイント減少、「減少」と回答した企業は 40.0%（前期 36.0%）で 4.0ポイント増加した。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは△32.0（前期△24.0）と△8.0ポイント悪化した。

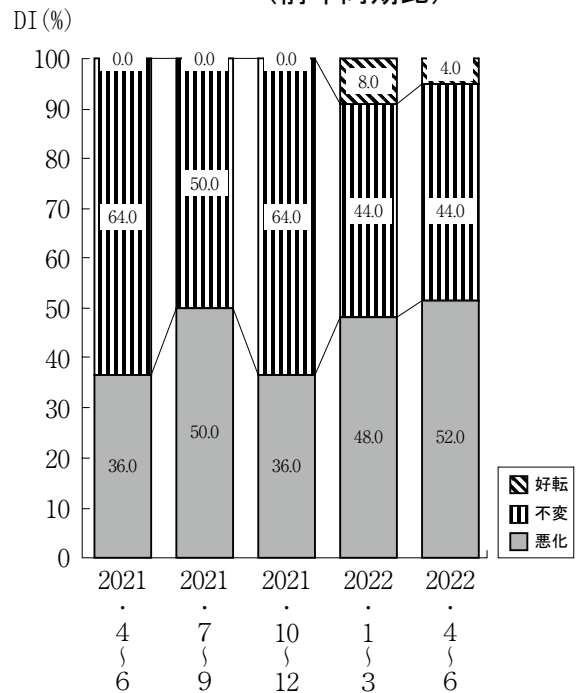


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 4.0% (前期 8.0%) で 4.0 ポイント減少、「悪化」と回答した企業は全体の 52.0% (前期 48.0%) で 4.0 ポイント増加した。

その結果、採算DIは△48.0 (前期△40.0) と前期より△8.0 ポイント悪化した。

図 2-3 採算の状況 (前年同期比)



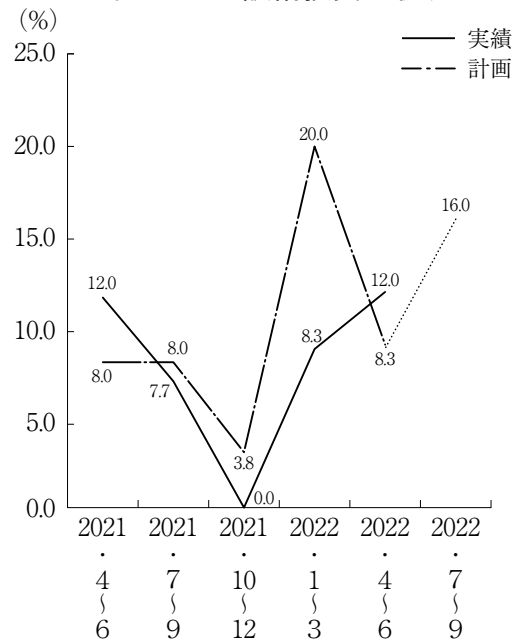
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施 (実績) 企業割合は全体の 12.0% (前期 8.3%) で前期と比べ 3.7 ポイント増加した。

その設備内容は、建設機械、車両・運搬具、付帯施設、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の 16.0% で、その設備内容は、建設機械、車両・運搬具となっている。

図 2-4 設備投資の状況

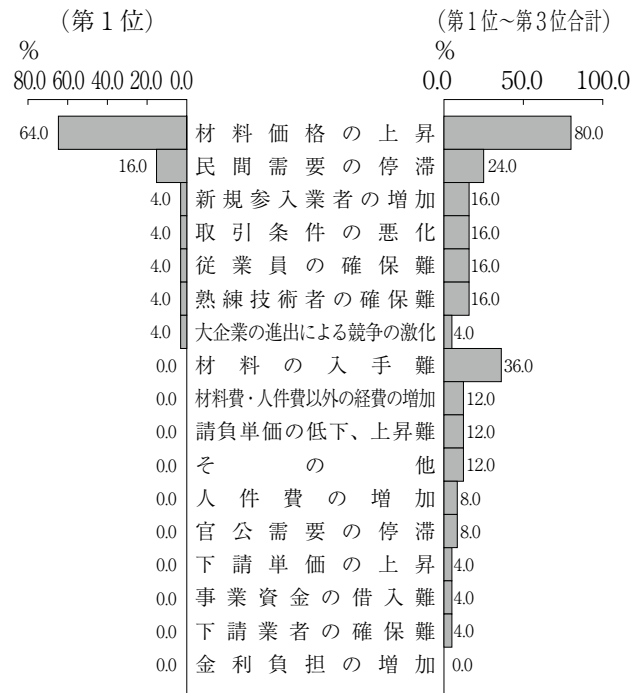


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「材料価格の上昇」が64.0%で、次いで「民間需要の停滞」が16.0%、「新規参入業者の増加」「取引条件の悪化」「従業員の確保難」「熟練技術者の確保難」「大企業の進出による競争の激化」が同率4.0%で続いた。

重要度第1位から第3位合計でも、「材料価格の上昇」が80.0%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「材料の入手難」36.0%、「民間需要の停滞」24.0%で続いた。

図2-5 経営上の問題点



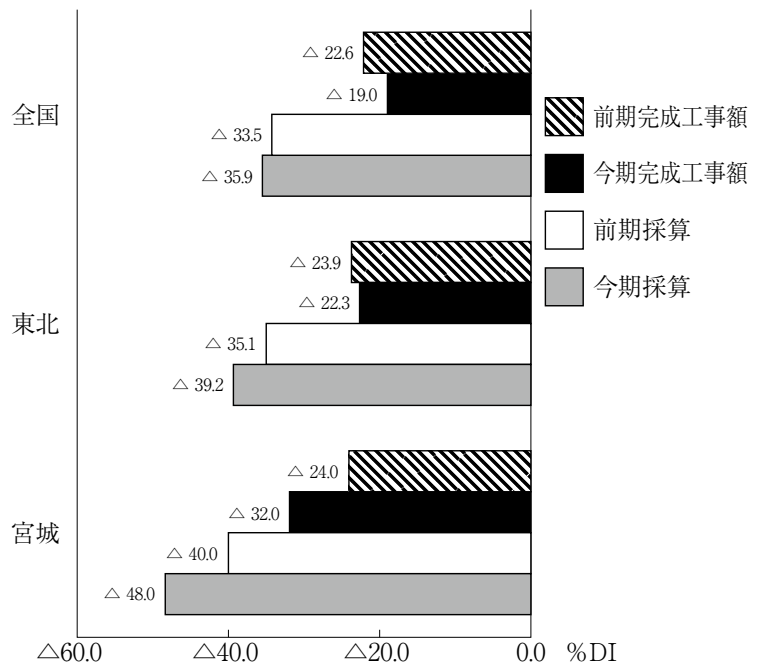
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較では、完成工事額DIは全国、東北で改善、宮城で悪化となった。

採算DIの比較では、全地域(全区分)で悪化した。その悪化度は宮城、東北、全国の順であった。

本県回答事業所からは「コロナ禍の影響でお客様の数が少なくなっている」「予算があってないようなもの」(建築工事)、「材料等仕入がうまくいかない」(内装業)、「建築資材の遅延が発生し、工期遅れにつながっている」「材料の高騰で採算がとれない状況が続いている」(建築工事)などのコメントが寄せられた。

図2-6 全国東北宮城完成工事額・採算比較(前年同期比)



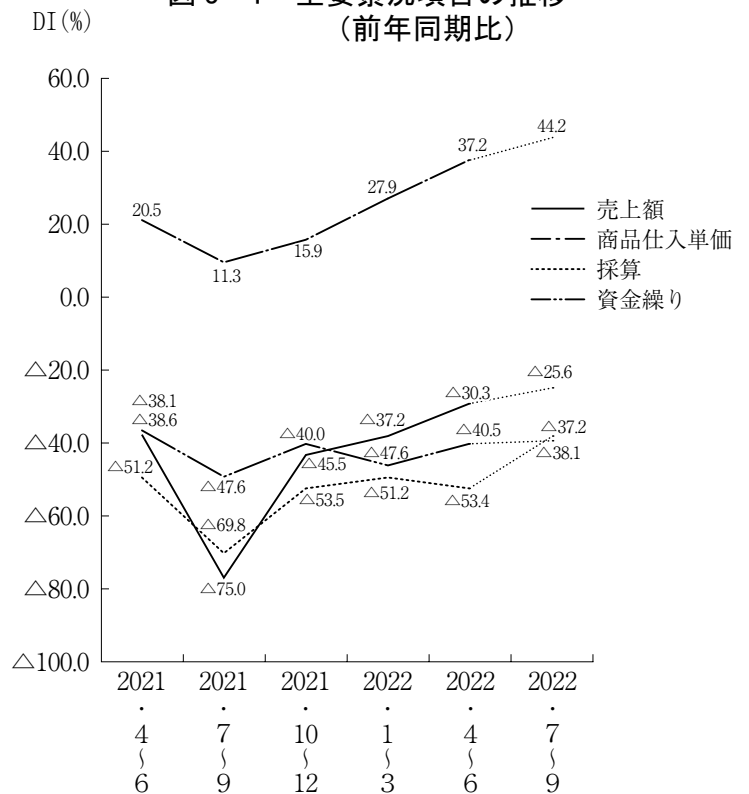
(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額D Iは今期△30.3(前期△37.2)と前期より6.9ポイント改善、採算D Iでは今期△53.4(前期△51.2)で△2.2ポイント悪化、資金繰りD Iでは今期△40.5(前期△47.6)で7.1ポイント改善した。

商品仕入単価D Iは今期37.2(前期27.9)となり、9.3ポイント上昇した。

図3-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



② 主要景況項目別状況

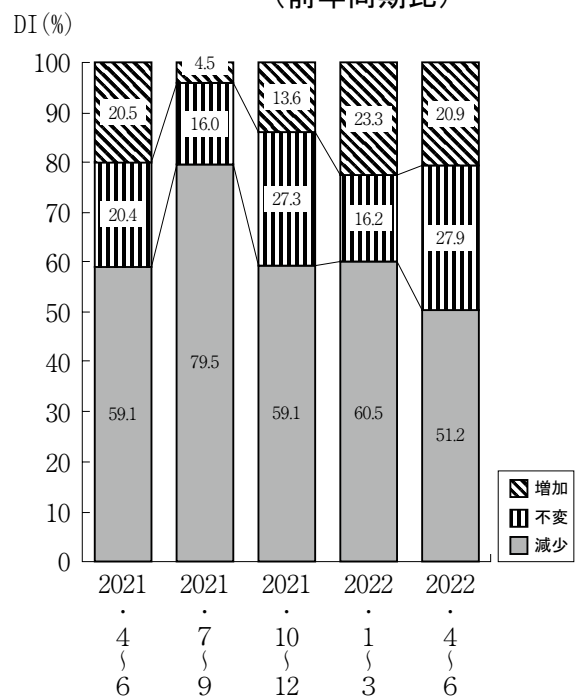
(a) 売上額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の20.9%(前期23.3%)で2.4ポイント減少、

「減少」の回答は、今期は全体の51.2%(前期60.5%)で9.3ポイント減少した。

その結果、売上額D Iは今期△30.3(前期△37.2)と前期より6.9ポイント改善した。

図3-2 売上額の状況
(前年同期比)

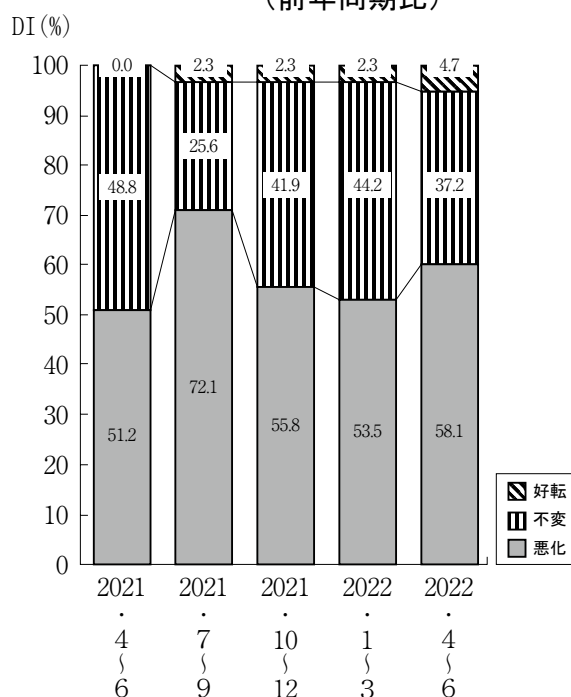


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の4.7%（前期2.3%）で2.4ポイント増加、「悪化」の回答は、今期は全体の58.1%（前期53.5%）で4.6ポイント増加した。

その結果、採算DIは今期△53.4（前期△51.2）で、前期より2.2ポイント悪化した。

図3-3 採算の状況
(前年同期比)



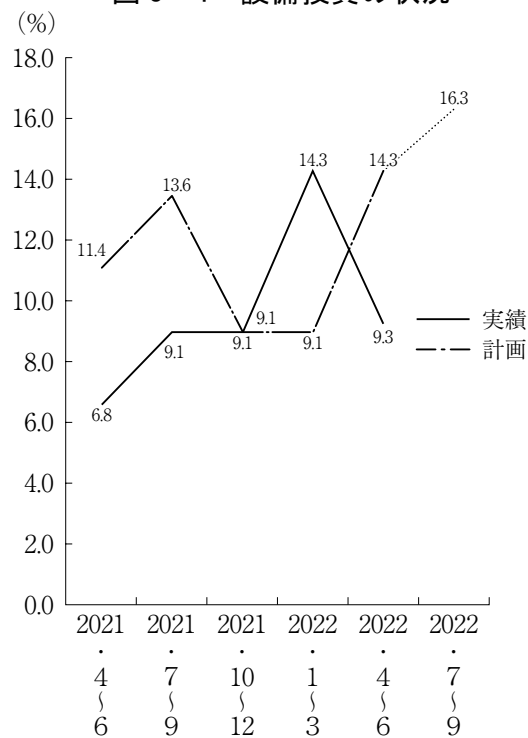
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、今期は全体の9.3%（前期14.3%）で前期と比べ5.0ポイント減少した。

その設備内容は、販売設備、車両・運搬具、付帯施設であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の16.3%で、その設備内容は、店舗、車両・運搬具、付帯施設、OA機器となっている。

図3-4 設備投資の状況

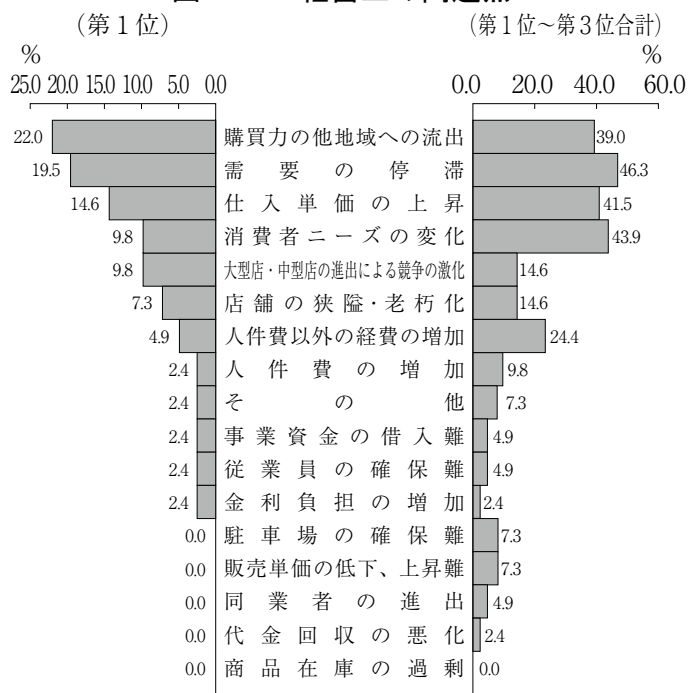


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は「購買力の他地域への流出」が22.0%で、次いで「需要の停滞」が19.5%、「仕入単価の上昇」が14.6%、「消費者ニーズの変化」「大型店・中型店の進出による競争の激化」が同率9.8%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」が46.3%(複数回答合計、以下同じ)で最上位、次いで「消費者ニーズの変化」が43.9%、「仕入単価の上昇」41.5%で続いた。

図3-5 経営上の問題点



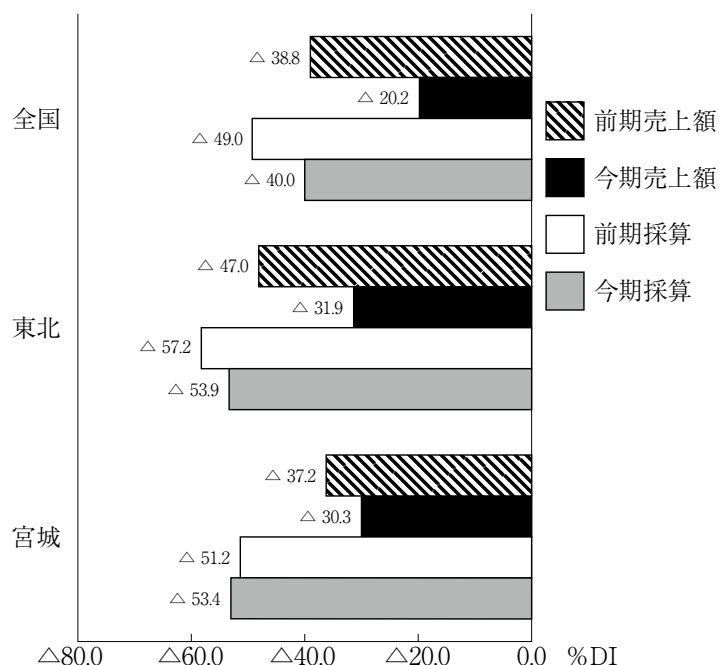
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

前期と今期の比較において、売上DIは全地域(全区分)で改善した。その改善度は全国、東北、宮城の順であった。

採算DIでは、全国、東北で改善、宮城で悪化となった。

本県回答事業所から「前期に比べ今期は好転(飲食料品)とする一方、「地域内でのコロナ感染者は減少したが、仕入単価が上昇しており販売価格への転嫁が困難(酒類販売)や、「来店数の増加がみられるが、仕入単価、光熱費の上昇により収益確保に苦慮」、「物価上昇による消費者の消費購買意欲の低下が懸念(身の回り品)などのコメントが寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較(前年同期比)



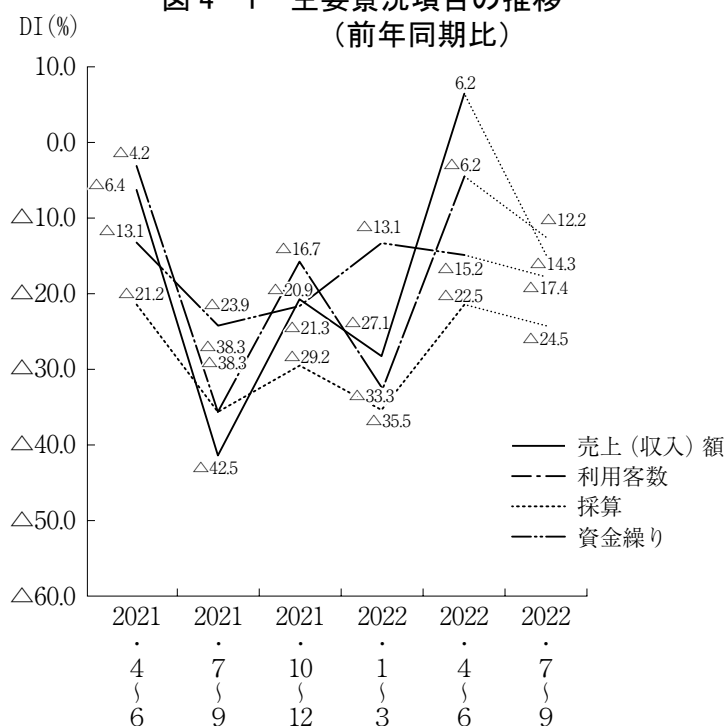
(4) サービス業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上(収入)額D Iは今期6.2(前期△27.1)で33.3ポイント改善、採算D Iも今期△22.5(前期△35.5)で13.0ポイント改善、資金繰りD Iでは、今期△15.2(前期△13.1)で△2.1ポイント悪化した。

利用客数D Iは、今期△6.2(前期△33.3)で27.1ポイント改善した。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



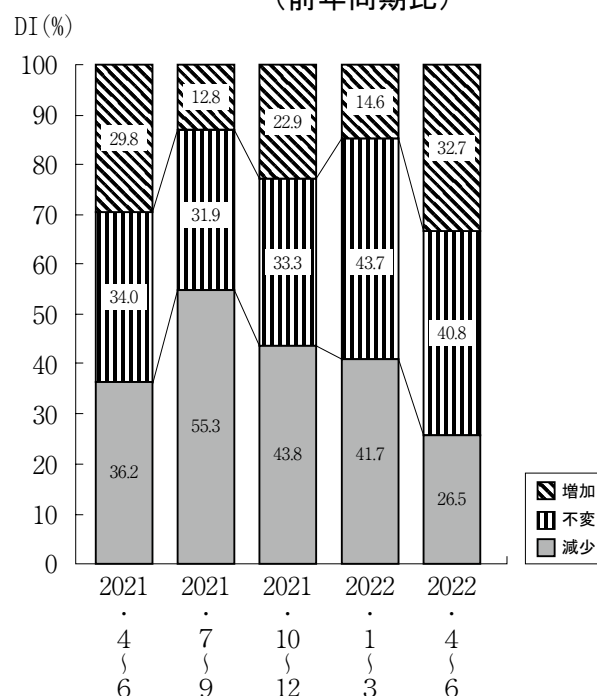
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(収入)額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の32.7%(前期14.6%)で前期より18.1ポイント増加、「減少」の回答は今期26.5%(前期41.7%)で15.2ポイント減少した。

その結果、売上(収入)額D Iは今期6.2(前期△27.1)で前期より33.3ポイント改善した。

図4-2 売上(収入)額の状況
(前年同期比)

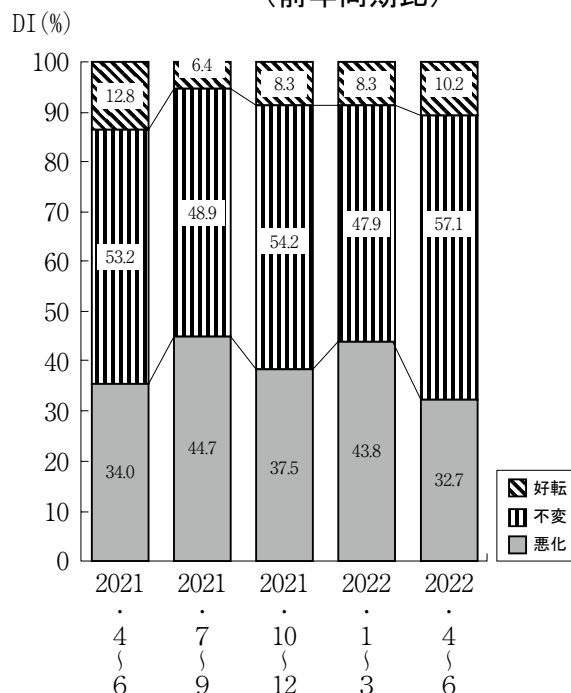


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の10.2%（前期8.3%）で1.9ポイント増加、「悪化」と回答した企業は今期32.7%（前期43.8%）と11.1ポイント減少した。

その結果、採算DIは今期△22.5（前期△35.5）で前期より13.0ポイント改善した。

図4-3 採算の状況
(前年同期比)



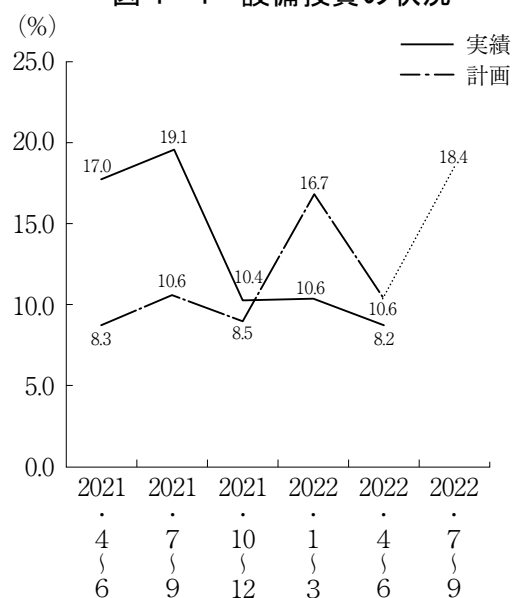
(c) 設 備 投 資

今期新規投資を実施（実績）した企業は全体の8.2%（前期10.6%）で、前期より2.4ポイント減少した。

その設備内容は、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設であった。

来期に設備計画している企業割合は全体の18.4%で、その設備内容は、サービス、付帯施設、OA機器となっている。

図4-4 設備投資の状況

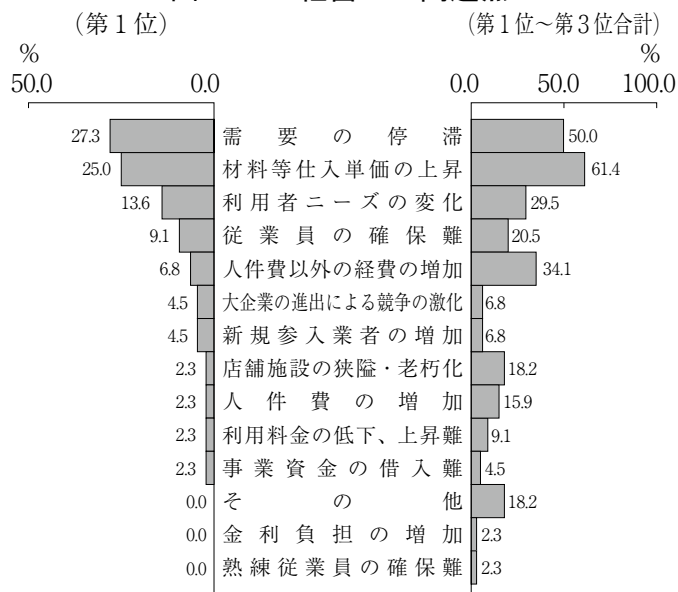


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は「需要の停滞」が27.3%で、次いで「材料等仕入単価の上昇」が25.0%、「利用者ニーズの変化」が13.6%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では「材料等仕入単価の上昇」が61.4%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「需要の停滞」が50.0%、「人件費以外の経費の増加」が34.1%、「利用者ニーズの変化」が29.5%で続いた。

図4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

前期と今期の比較において、売上(収入)DIは全地域(全区分)で改善した。その改善度は全国、東北、宮城の順であった。

採算DIでも全地域(全区分)で改善した。その改善度は全国、東北、宮城の順であった。

本県回答事業所からは、「コロナの影響による需要停滞は緩和され、次第に人流の動きを感じる」(宿泊業)、「材料費や光熱費の値上げで状況は厳しい」や「設備投資による生産性向上に努めたい」(飲食店)、「料金体系の見直しを行いながら収益改善に取り組んでいきたい」(宿泊業)などのコメントが寄せられた。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較(前年同期比)

